

令和5年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査の結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H30 入学 現6年生	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	全国 (4月)
	66.8	69.0	47.2	60.0
	(1.02)	(1.01)	(0.94)	(0.98)
R5 正答率の全国比		1.03		0.96

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語は、12月調査で県平均を上回り、4月調査でも県平均・全国平均ともに上回り、5年時から着実に力をつけている。算数は、12月調査・4月調査ともに県や全国の平均をやや下回っている。
- ・国語は、内容別では話すこと・聞くことの領域がよくできていた。条件作文等、苦手としていた問題も書ける児童が増えた。問題形式では選択式、短答式、記述式ともに県や全国との差異はない。
- ・算数は、領域別ではデータの活用がよくできており、変化と関係が落ちている。問題形式では選択式、短答式、記述式ともに県や全国にやや及ばない。解答の速さを身に付けることも必要と思われる。
- ・県や全国と比較して、家庭学習の時間が短いという結果が出た。長時間短時間の二極化の傾向にある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・算数は、時数の差はあるが全学年にわたってTTによる授業を実施している。担任と加配教員が話し合いのもとT1やT2を担ってきめ細やかな指導をし、教材作成や休み時間の個別支援を分担する。
- ・夏季休業中に、職員研修で講師を招聘して今年度の5年県学状、6年全国学状を分析する機会をもった。全職員で分析し、考察し、手立てを考え、9月以降その成果を活かせるよう日々努めている。
- ・若手教員が多いが、校内研究、市教研、初任研等の機会を逃さず、研修を積んでいる。全体や低中高特支Gでの教材研究に励み、UDの視点やICT利活用を取り入れた指導方法を日々模索している。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の全校一斉の「立腰」、授業のはじめと終わりの「立腰」を日々の生活に位置付け、落ち着いて学習に臨む態度を育てる。
- ・毎月「筆箱チェック週間」を設定し、基本的学習習慣の定着の一助とする。
- ・市の取組である「花まるタイム(音読 図形 視写 計算)」を火・木・金の朝の15分間に位置付け、級外も共に指導し、学力向上の一端を担う。9月以降は保護者や地域の方も参加してもらっている。
- ・主体的に学ぶ力の育成を目指して、3年以上に「自主学習ノート」を書かせ、級外が点検を担当する。